



記事全文

## 「患者様の人生をもっと豊かに」 安心できる腎医療を提供する。

CAPD療法を導入した各地の病院を紹介する「ホスピタルレポート」。今回は「わたしたちは心のかような医療と介護をめざします」をコンセプトに、患者さんとふれあいを大切に、スタッフと設備機器が充実した恵心会京都武田病院を訪問しました。CAPDチームのドクター・専任スタッフにお話を伺いました。

### 指導には時間をかけ、メンタル面もしっかりケア。

JR西大路駅から徒歩10分、西大路七条にある京都武田病院は「わたしたちは心のかような医療と介護をめざします」をコンセプトに、地域医療・介護サービスに貢献されている地域JR西大路駅から徒歩10分、西大路七条にある京都武田病院は「わたしたちは心のかような医療と介護をめざします」をコンセプトに、地域医療・介護サービスに貢献されている地域密着型の中核病院です。特に血液透析においては、昭和56年の開業当時から多くの透析患者さんの治療にあたり、平成15年には透析室を増床し血液透析センターとしてオープン。CAPD療法にも積極的に取り組んでおられます。現在、血液透析患者さんは102名、CAPD患者さんは20名、ドクター3名、看護師4名、外来看護師1名、クラーク1名の合わせて9名のスタッフがCAPD患者さんの治療や対応にあたられています。各部署においてCAPD担当が決まっており、常に情報交換を行うなどの連携体制を取っているのはもとより、担当者不在でも連絡が取れるよう院内メールを活用。さらに業務が円滑に進むようクリティカル・パスを作成・活用されているそうです。

副院長で血液透析センター長を兼務されている武田敏也先生に、CAPDのメリットについてお話を伺いました。

「腎不全になった場合、主な治療法として血液透析、CAPD、腎臓移植の3つが考えられます。この中で、CAPDは時間的余裕ができて社会復帰がしやすいこと、心臓や血管系への負担が少ないこと、操作が簡単で自分でできること、貧血が改善しやすいことなどがメリットだと思います。血液透析が広く浸透している京都では、CAPDの普及率は決して高くないのですが、私はこのCAPDを非常に優れた治療法だと感じています。私の恩師であり、私にCAPDのことを教えてくださった近畿大学医学部堺病院の今田聡雄教授は、大阪でCAPDを広められたんです。今度は、私が京都でCAPDを広めていきたいと思っています」と武田先生。

CAPDを継続していく上で、どのような配慮をされているのでしょうか。

「CAPDの導入を検討している段階では、利点などの説明はもちろんですが、できるだけ具体時にイメージできるよう器具や操作方法まで、こと細かにご説明しています。CAPDを継続するには、感染をおこすと治療に支障をきたすため、カテーテルケアにはじっくり時間をかけて指導し、患者様にも十分注意を払うよう促しています。それから、どんな些細なことでも連絡をすぐしてくれるようお願いしています」と武田先生。

武田先生から全国の患者さんへメッセージをいただきました。

「私はよく患者様に『旅行に行ってもいいですか』と聞かれますが、『ぜひ行ってください』と答えています。自己管理さえできれば心配はいりません。私の患者さんの中には四国八十八ヶ所のお遍路めぐりをした

方もいます。やりたい事をあきらめたりせずに、豊かな人生を送ってください。私たちがしっかりサポートします」と、武田先生。

## ナースが結束し、家族的な看護を実践

次に、看護師の杉田扶美枝さんに、看護師として特に注意されている点を伺いました。「患者様の理解度に応じた指導を行うこと、その際に患者様の闘病意欲を妨げないよう配慮しています。それからもうひとつ、患者様がボディイメージなどで混乱を起こさないよう精神的なケアを行っています。何の病気でもそうですが、本人にしか分からない不安というのはつきものです。特にCAPDの場合は、自宅外でバッグ交換を行うなど体や行動に変化が伴うと、困ったことや不安に思うことがあると思います。そんな時は、ドクターや私たち看護師などに些細な事でも相談して欲しいですね。対処法が分かったり、慣れてくると不安がなくなり精神的にも安定してくるはずですよ。また、当院では今年2月から患者会を企画しています。そういった機会があれば参加して、他のCAPD患者さんと交流を深めるのも良いと思います。自分だけで頑張るのではなく、周りと一緒に頑張っていきましょう」と、杉田さん。

「わたしたちは心のかような医療と介護をめざします」をコンセプトに、それを実行しようと心掛けておられる京都武田病院の皆さん。CAPD患者さんをしっかりと支えてくれる、本当に優しいスタッフばかりでした。

CAPD情報誌『VIVID(びびっど)No.35』より